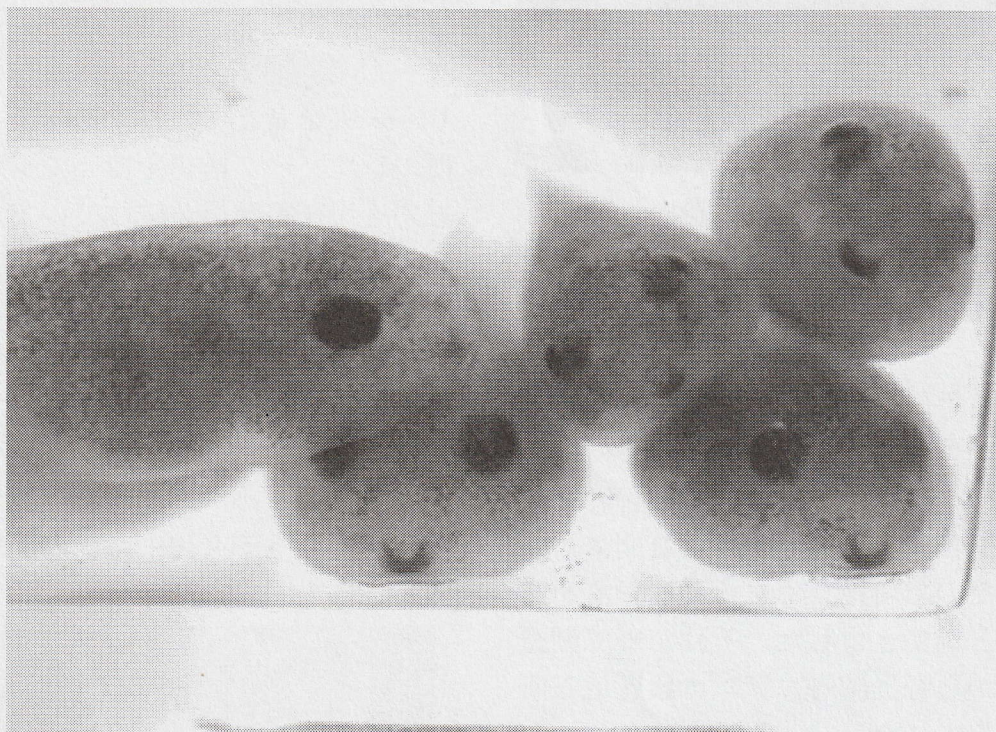


愛知県自然観察指導員連絡協議会

協議会ニュース

No. 178

2023.7



Contents

- | | | | |
|----|------------------------|-------|-------|
| 1 | 表紙 | | |
| 2 | 通常総会・記念講演会の報告(3/21) | 尾張支部 | 山田 博一 |
| 3 | 自然観察指導員講習会の案内(8/19~20) | 名古屋支部 | 浅井 聡司 |
| 4 | 生物分類・生態研修会の案内(10/9) | 名古屋支部 | 石原 則義 |
| 5 | あいちの自然観察会報告(5/7) | 知多支部 | 森田 琢磨 |
| 6 | あいちの自然観察会報告(5/20) | 名古屋支部 | 滝田 久憲 |
| 7 | あいちの自然観察会報告(5/28) | 東三河支部 | 星野 芳彦 |
| 8 | 支部総会報告 | 知多支部 | 榊原 靖 |
| | 支部総会報告 | 名古屋支部 | 滝田 久憲 |
| 9 | 支部総会報告 | 西三河支部 | 三田 孝 |
| | 支部総会報告 | 東三河支部 | 星野 芳彦 |
| 10 | お知らせ/編集後記 | 編集担当 | 石原 則義 |

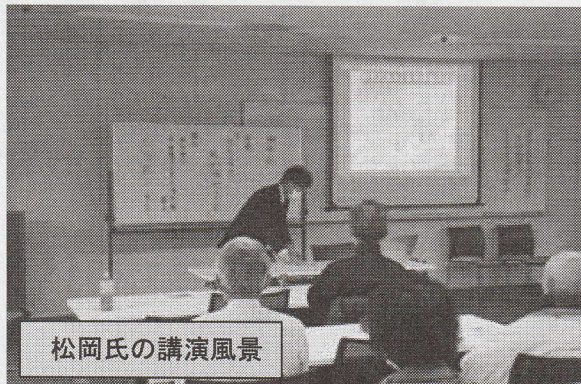
今号の表紙

タコガエルのオタマジャクシ(幼生)

(なごビオ両生類部会) 山田 律子

総会・記念講演『研究の歩みと私的博物誌』

講師：前豊橋市自然史博物館館長 松岡 敬二氏



松岡氏の講演風景

松岡さんは吉備高原の自然豊かな小さな町に生まれ、自然との接し方を教えてくれる学校の先生や町の研究者、お父さんに恵まれました。

小学校6年生で緑鉛鉱を発見した時、西川功さんが真剣に接してくれたので研究心が芽生え、「備北層群産汽水貝類化石」の研究では、住吉先生がしっかりと質問に対応してくれたので新種ビホクオオシジミを記載することができました。それが野尻湖発掘の参加から野尻湖層カワニナ胎児化石研究に繋がりました。

名古屋大学では糸魚川淳先生の指導のもと、質問に即対応して放置されなかったことで、古生物学や博物館の魅力に取りつかれ、大学卒業後は豊橋市自然史博物館に就職しました。

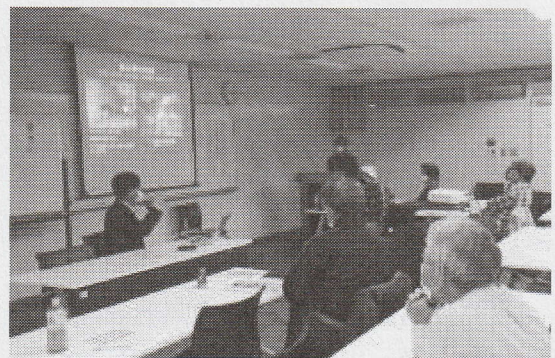
そのころ知った作家井伏鱒二は何度も自分の作品を書き直しているのので、「古生物学の研究も100%完成して完了ではなく、70%完成したらそれで良いと割り切って、後からやってもいい」というやり方で古代湖の貝類相の変遷を解明する古琵琶湖層群化石研究をライフワークとして繋げてゆきました。それがネパールのシワリルク層調査、バイカル湖研究への参加につながりました。

博物館に勤めていた時、熱心な人と良い

環境の二つの出会いが揃うとすばらしい研究ができるので、博物館は「もの」だけではなく「ひと」も大切だと痛感しました。それで、職員が国内や海外に自由に行って研究できるように条例を変えて、博物館職員の地位向上を行いました。

一方で、地質・地形から地球の過去を知り、未来を考えて活動する場所である東三河のジオパーク構想を持ってジオサイトの魅力を現在も発信し続けています。

江戸時代尾張は「尾張本草学」が発達して熱心に自然を研究した結果、さまざまな博物画（動植物の精密な絵）や研究成果が残っており、その自然を研究する伝統から、伊藤圭介氏など誇るべき学者を輩出してきました。ところが今では、周辺地域と比べて自然に関する文化・学術の面で水をあけられています。



松岡氏の講演風景

愛知県には陶磁器博物館など莫大なお金をかけた産業の展示はたくさんあるのに、自然史博物館がありません！

それを憂いて愛地球博の跡地に自然史博物館を作る運動をしてきましたが未だに実現していません。

「知事が自然史博物館設置に無理解なだけでは済まされません。自然に関心のある者が力を合わせてそれを変えてゆきましょう」と締めくくられました。（山田博一記）

自然観察指導員講習会の案内

名古屋支部 浅井 聡司

日本自然保護協会発行の雑誌「自然保護」の5・6月号(2023No593)の30ページに、自然観察指導員講習会の案内が掲載されました。今年は、8月19日(土)～20日(日)の1泊2日で、美浜少年自然の家にて開催されます。

各会員の身近な方で、講習会にお誘いたい方には、同封したチラシをお渡しください。また、参加希望者がいらっしゃいましたら、私(浅井)までお知らせください。申し込み期間の前に、希望者の名前や連絡先の詳細を把握したいと思います。連絡いただければ、私の方から連絡を取りたいと考えています。

協議会の発足当時(第2回の総会)には、会員が240名ほどいました。一時期は、400名を越える会員数でしたが、近年はだんだん減少し、今年は260名ほどになっています。コロナ禍の中で講習会を実施できず、このままでは会員の減少に歯止めがかかりません。何とか参加者を60名集めて、協議会の会員を増やしていきたいと考えています。私は、今回の講習会にかけています。

現地スタッフも、新しい人に加わって欲しいと、声をかけています。協議会会員の方で、スタッフを引き受けていただける人があれば、私までお知らせください。

自然観察指導員講習会

日時：2023年8月19日(土)～20日(日)

場所：美浜少年自然の家(愛知県美浜町)

定員：60名 うち 愛知県自然観察指導員
連絡協議会枠 20名

対象：満18才以上の方 2日間の全プログラムを受講できる方

費用：20,000円(NACS-J会員は15,000円)

宿泊される方は、宿泊費別4,900円

日帰りを通う方：弁当持参

※宿泊・日帰りは選択できます。

申込期間：2023年6月26日(月)～7月24日(月)必着

申込方法：①か②のいずれかの方法で申し込む

① 日本自然保護協会専用ウェブフォーム

<https://forms.gle/mTE7NV6Q7xiPae1S6>

② 〒480-1178 愛知県長久手市丁子田
17-62 浅井聡司

問い合わせ①：日本自然保護協会 自然観察指導員講習会担当 金谷竜二

〒104-0033 東京都中央区新川1-16-10
ミトヨビル2F TEL 03-3553-4101

Kansatsul978@nacsj.or.jp

問い合わせ②：愛知県自然観察指導員連絡協議会 担当 浅井聡司

TEL 090-3935-8192



指導員講習会のまとめ(2021年)

生物分類・生態研修会の案内

名古屋支部 石原 則義

日 時：10月09日(月・祝) 13:00~16:30

場 所：名古屋市中心企業会館(吹上ホール)

4階 第3会議室

名古屋市中千種区吹上二丁目6番3号

交通機関：地下鉄桜通線「名古屋駅」から徳重
行「吹上駅」下車 5番出口より徒歩
5分

内 容：受付 13:30~ 記念講演：14:00~15:30

意見交換会：15:40~16:10

講 師：林 将之氏

(樹木図鑑作家・編集デザイナー)

演 題：葉っぱはなぜこんな形なのか？

ー植物の生きる戦略と森の生態系を考
えるー

葉っぱの役割は、太陽の光を浴びて光合成を行うことです。すなわち、二酸化炭素を吸収し酸素を排出しながら、生きるための栄養(糖分)を得ることです。葉っぱの形は、いかに光合成を行うか、その戦略や適性を表した形になっていると考えられます。

ギザギザは何のためか？

まずはギザギザ＝鋸歯の機能が何なのか考えてみましょう。鋸歯の先端に「水孔」(すいこう)と呼ばれる穴があり、水孔から水が出る現象は「溢泌」(いつぴつ)「溢液」(いつえき)と呼ばれています。植物が水分過多になった場合、通常は葉裏にある気孔から水分を蒸発させる(蒸散という)が、気温が下がって気孔が閉じる夜間は、水孔から余分な水分などを排出します。鋸歯の機能は水分を排出するだけでなく、ヒイラギのトゲは外敵、特に草食動物から身を守るための鋸歯と考えられます。ほかにも鋸歯のギザギザが、葉をとりまく空気の層「葉面境界層」(ようめんきょうかいそう)に変化を起こして空気を流れやすくし、それによって気孔が二酸化炭素を取り込みやすくなり、光合成の効率が高まるということです。

鋸歯のギザギザについて考えもしませんでした。どの本にも掲載されていなませんでした。自然観察会でも見落としていました。

切れ込みのある葉とない葉

幼木ほど葉が切れ込み、成木ほど不分裂葉が増えるパターンの木が多いのはなぜでしょうか。「葉に切れ込みがあると、葉の周囲の空気が流れやすくなり、光合成に必要な二酸化炭素を取り込みやすくなる」ということです。

羽状複葉の戦略

「羽状複葉は成長スピードを速める上で有利」と考えられます。裏付けの一つとしてニセアカシア(ハリエンジュ)とシンジュ(ニワウルシ)は、いずれも羽状複葉をもつ生育力旺盛な陽樹(明るい場所でよく育つ木)です。

葉の蜜腺(葉から出る蜜)

葉の蜜腺は、何のためにあるのでしょうか？花から蜜が出るのはわかりますが、葉から蜜を出す目的は何でしょう？アカメガシワは、幼木の葉の基部以外に、葉の縁に近い葉脈の先端部にも蜜腺があります。葉裏にも多数微細な腺点がありアリのエサとなるゼリー状の食物体を、若葉から分泌しています。植物が花外蜜腺から出す蜜には、アリの神経系に作用する成分や依存性を高める成分が含まれていることが分かり始めてきました。恐るべし、植物のしたたかさです。



林 将之氏の著書

著書は「葉っぱはなぜこんな形なのか？」(講談社発行)。著者は沖縄在住の林将之氏です。自然観察会には、バイブルとなる書です。一読をお勧めします。

あいちの自然観察会の報告

知多支部 森田琢磨
(榊原 靖 改編)

【行事名】 砂浜の花と虫

【日 時】 2023 年 5 月 7 日 (日)

9:30~11:30

【場 所】 蒲池海岸 (集合: 蒲池漁港 P)

【参加者】 9 名 (指導員を含む)

下見・準備を2度行いました。5月1日に景観撮影、危険箇所の点検を実施、5月6日に虫トラップを約30ヶ所設置しました。

本番の5月7日は前夜からの降雨が終日続く見込みでしたが警報の恐れはなく観察会を行いました。総勢9名の常連で前日設置した虫トラップを順次開けて夜行性の生きものを観察しました。ゴミムシダマシの仲間が殆どでしたが、ヒョウタンゴミムシの仲間、ハサミムシの仲間など砂地で腐食解体を営む生きものを10種ほど観察できました。

ハマヒルガオ、ハマボウフウなど海浜植物は小雨の中で美しく咲いていました。いつもの排水溝には稚魚のボラ、マハゼの他カダヤシも泳いでいました。

いろいろな話題が飛び交う中、「雨もまた楽し」の観察会になりました。

【観察した生き物】

◎植物

ハマヒルガオ、ハマボウフウ、コウボウムギ、スナビキソウ、コマツヨイグサ、ハマダイコン、ハママツナ、オカヒジキ、ツルナ、ハマゴウ、トベラ、シャリンバイ、タガラシ、オニグルミ(漂着発芽)、オオオナモミ、アツバキミガヨラン(ユッカ)

◎動物

ゴミムシダマシの仲間、ヒョウタンゴミムシ、オオヒョウタンゴミムシ、オニナガエンマムシ、ハマヒョウタンゴミムシダマシ、オオハサミムシ、ハマベハサミムシ、ゲジ、ハシリグモ、オカダンゴムシ、クロ

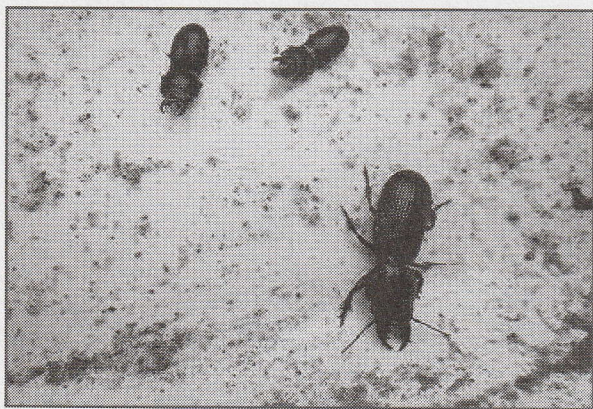
アリの仲間、ヤマトシロアリ、キアゲハ(幼虫)

◎その他

スエヒロタケ



雨の中、観察開始です



オオヒョウタンとヒョウタンゴミムシの
サイズ比較



ハマヒルガオ

あいちの自然観察会報告

テーマ 名古屋一高い山 東谷山に登ろう！！ 名古屋支部 滝田 久憲

名古屋支部では、今年度のあいちの自然観察会を5月20日（土）に名古屋市守山区の東谷山で実施しました。この東谷山では、当初、2020年5月に実施予定でしたが、この間、新型コロナウイルス感染症の問題や悪天候などのために中止となり、3年越しの実施となりました。この東谷山については、協議会ニュース No177 号で記したように標高が198.3mあり、名古屋市では、一番、山らしい山です。また、定光寺などを含む愛岐丘陵とつながっているために、植生が豊かであり、そこに多くのリスやウサギ、日本カモシカなどの多様な動物が生息しています。また、いくつもの谷筋があり、そこからはたくさんの湧き水が出ており、特に、西側の山麓では、いくつかの湿地帯が形成され、シデコブシを始めとした東海丘陵要素の植物が生息しています。そのために、この地域は、愛知県の自然環境保全地域に指定されており、市民による保全活動なども進められています。また、その山頂には尾張徳川家とゆかりのある尾張戸神社があったり、守山区の志段味地区に広がる古墳群の一部が山頂などにあったりして、古来、人の信仰や生活と深くつながっていたことが分かります。

自然観察会当日は、東谷山フルーツパーク第1駐車場に集合しました。参加者は当支部会員7名、一般6名でした。この日は、偶然にも、東谷山リス研究会やなごや生物多様性保全活動協議会の里山林・社寺林部会のメンバーなどが調査のために集まっていました。午前9時半過ぎに、集合地点を出発し、林縁沿いの道を時計回りに進みました。途中で、CSR活動の一環として、

道路際の草刈りなどを行っている民間企業のグループに出会いました。道路際の植物を観察しながら、住宅地を抜けると登山道の入り口に出ました。登山道周辺の植生では、最初はネジキやリョウブ、コナラなどの落葉樹を多く観察しましたが、野鳥の鳴き声などを聞きながら林道を進むにつれてシイやカシの大木が目立つようになり、林道が暗くなってきました。頂上に近づき、少し明るくなると、道路際にホルンフェルスの露頭が目立つようになりました。午前11時20分頃に頂上に辿り着き、尾張戸神社やその周辺の古墳などを見たり、二つの展望台からの眺望を楽しんだりした後、緩やかな石段でできた尾張戸神社の参道を下りました。常夜灯のある参道入り口に出て、駐車場に戻り、そこで解散しました。

名古屋市民には、行楽施設としての東谷山フルーツパークが有名ですが、側にある東谷山にあまり足を延ばしません。東谷山の湧き水はやがて庄内川に合流し、名古屋港に注いで、海の生き物の生命を育んでいます。後世に残したい自然遺産だと、改めて認識しました。



林道で落下物を観察

あいちの自然観察会の報告 「愛知県民の森自然観察会」

—モリアオガエルに会いに行こう—

東三河支部 星野 芳彦

開催日：令和5年5月28日(日)

開催場所：愛知県民の森

(新城市門谷鳳来寺 7-60)

参加者数：一般参加者 39人

(大人25人・子ども14人)

会員17人

1 モリトピア前にて会長挨拶の後、担当者の注意や説明を終えて、スタートです。

2 午前の部：モリアオガエルの観察

カエデの枝に産み付けられた泡状の卵塊と成体を観察しました。また、オタマジャクシの捕食者であるアカハライモリも観察できました。

ここでヨウラクランやホオノキの花の観察やイロハモミジとオオモミジの違いも観察しました。また、落ちていたクスサンの繭(通称：透かし俵)も観察しました。

3 モリトピア前に戻り昼食。

4 午後の部：風穴まで移動しながら観察

不動滝付近の岩脈等の観察・雨樋・風穴の観察し、説明を受けました。

移動途中では植物・昆虫などの観察を行い、ウツギノヒメハナバチ・カワトンボ(昆虫)、橋の上からはカワムツ(魚)など、ジガバチソウ・コアジサイ・マルバウツギ・シライトソウ・ササユリ(植物)などを確認しました。さらに、ニホンリスのフィールドサインをみつけ、巣・食痕(通称：エビフライ)・スギの皮剥などが観察できました。

5 モリトピア前に戻り本日のまとめをしました。

通常 of 自然観察会と異なり、今回は、昼食を挟んでのゆったりとした観察会でした。



モリアオガエルの説明



モリアオガエルの卵塊



モリアオガエル♂



風穴の説明

知多支部総会報告

知多支部 榊原 靖

2023 年度知多自然観察会の総会が以下のように開催されました。

【日時】2023 年 2 月 19 日（日）9:30～11:30

【場所】阿久比町勤労福祉センター（エスペランス丸山）集会室 3 及び 4

3 年という長きにわたったコロナ禍にもようやく出口が見え始め、過去 3 年間ほど躊躇することなく総会を開催することができました。とはいえ全く安心というわけでもないので前年同様、広い会場で、手指消毒・マスク着用での開催になりました。参加者数は前年よりやや増えて 32 名でした。

代表は私用のため冒頭のみ参加で議事進行を副代表の南川氏に託していったため、本報告は総会議事録の抜粋になります。

県協議会会長の浅井さんからは、全支部に会員として入会しているが、ここ数年コロナ禍で活動に参加できていない。今年からは全支部の活動に会員として回りたいとの表明がありました。また、今年 8 月 19、20 日に美浜少年自然の家で自然観察指導員講習会を開催するので、協力をお願いしたい、さらに若い会員の勧誘に努力したいとの要請がありました。

事業報告では、11 月に発足 40 周年記念の行事（講演会及び展示会）を行なったこと（協議会ニュース 177 号をご参照ください）、支部行事・各ブロック行事については前年と比較して中止になった行事が少なかったことが報告されました。

知多観恒例の春・秋の研修旅行は、コロナ禍のためしばらく行われませんでした。2022（令和 4）年度の秋に 3 年振りに復活できました。

新役員を紹介します。ほんの少し若返りました。一年間よろしくお願いします。

令和 5 年度 知多自然観察会役員

顧問 降幡光宏

代表 榊原 靖

副代表 榊原正躬、平松裕規

庶務 吉川 勉

会計 森田琢磨

名古屋支部総会報告

滝田 久憲

日 時：2 月 26 日（日）14:00～

場 所：名古屋市西区生涯学習センター

参加者：29 名 委任状：45 名

令和 5 年度の名古屋支部総会が名古屋市西区の浄心交差点近くにある「名古屋市西区生涯学習センター」の視聴覚室で開催されました。新型コロナウイルス感染症の第 8 波の感染収束に伴い、愛知県は 2 月 27 日から感染対策を厳重警戒から警戒領域に切り替え、マスク着用などの基本的な感染対策をすれば良くなりました。そこで、総会当日も、生涯学習センターの指示に従い、十分な感染対策をとりながら実施しました。

支部長の挨拶の後、議長と記録係が選出され、議事が進められました。

最初に令和 4 年度の各種事業の報告が行われました。令和 4 年度については、新型コロナウイルス感染症の問題がありましたが、十分な感染対策をとりながら、何とか予定されていた各種事業が実施されました。また、会計報告についても、支出項目についての質問などがなされましたが、事業報告と共に承認されました。

令和 5 年度は名古屋支部設立 40 周年記念事業を実施する予定になっています。そこで、こうした事業を含む令和 5 年度の事業計画とそれを実施するための事業予算が議論され承認されました。

総会終了後には、戸田尚希氏（名城大学農学部研究員）による「愛知県における外来種の現況と外来カミキリムシ類の状況」と題した講演会がなされました。

令和 5 年度支部役員

支部長 滝田久憲

副支部長 各定例自然観察会代表者
（新役員）会計 久村三重子

西三河支部総会報告

三田 孝

2月4日(土)に支部総会が参加者 11 名を得て岡崎竜美ヶ丘会館で行われました。コロナ禍が継続している中ですが3年ぶりに対面での総会を開くことができました。

2022年度は予定された4回の支部主催観察会(4月王滝溪谷、8月西浦海岸、10月西尾万灯山、1月岡崎市東公園)を全て実施することができました。6月の天生湿原研修会は現地の林道通行止めのため3度目の中止となりました。5ヶ所の地域定例観察会(くらがり溪谷、おかざき自然体験の森、おかざき自然観察の森植物、草だらけの会、亀城公園)は順調に開催されました。コロナ対策を施しながらも平常に戻りつつあります。

2023年度も会主催観察会は4回。4月8日(土)「佐久島」は島の自然を楽しもう、7月22日(土)「津具高原丸山周辺」は高原の森を楽しもう、9月30日(土)「豊田六所山」は六所山の秋を楽しもう、1月20日(土)「岡崎甲山周辺」は街中の混交林を楽しもう、を企画しました。会員研修会は6月3日(土)「天生湿原」で、日本海型ブナ林と高層湿原を楽しもう、を企画しました。4度目の正直です。今年度は「鳥居峠」を第二候補地に用意しています。

地域定例観察会として新たに「岡崎東公園・小呂湿地自然観察会」が立ち上がります。今年度は3回(6/10、8/12、10/14)の予定。昨年度入会された武田さん(若手です!)が主担当になります。開催曜日の変更をしたのが「おかざき自然体験の森植物観察会」です。毎月第3土曜日から第2土曜日に変更です。8月休みは変わらず。他の地域定例観察会は昨年同様の日程で開催予定です。

東三河支部総会報告

新たな気分で新年度のスタート!

東三河支部 星野 芳彦

昨年度は「東三河の自然展」「記念講演会」など創立 40 周年記念行事が目白押しで、何かと多忙な1年でしたが、今後の活動に弾みがついた特別な年でした。

去る2月11日(土)、豊橋市民センター(カリオンビル)で25名の出席(委任状36名)で令和5年度の通常総会が開催されました。議案の審議は、滞りなく終了し、可決承認されました。

当支部はNPO法人化して20年が経過し、会のあり方や運営方法について様々な問題が浮上し、再考の時期にきています。特に自然観察会の運営に多くのメンバーが関わって円滑に進められるよう、今年度から自然観察会の回数を減らし、企画・運営を新しいスタッフリーダーに委ねる試みを行います。今年度の活動状況を見ながら、事業内容や方法を考えていこうと思います。自然観察会活動は、まず、多くのメンバーが無理なく、楽しく参加できることが大前提であると考えます。その為の第一歩を踏み出す年にしたいと思います。

また、2か月に一度東三河ふるさと公園で自然観察会を開催していますが、そのご縁で今年から、管理棟の一角に東三河の自然を紹介するコーナーを作っていただきました。(下記の画像です。)



東三河にお越しの節には、是非ご覧下さい。
「いっぺん、見ておくれんよ。待っとるぞん。」

(一度見て下さいね。待っていますよ。)

各県連絡会の会報のお知らせ

各県連絡会からの会報のお知らせ

・NPO 自然観察指導員京都連絡会 「森の新聞」第 81(190)号 ・ぐんま自然観察指導員会「たより」No.118 ・早乙女高原ファンクラブニュースレター2203 号 ・島根県自然観察指導員連絡協議会「おとしぶみ」129 号 ・かがわ自然観察会 「ネイチャーウォッチング」No.414 415

上記団体以外にも何県かに送付しています。情報交換となります。各県連絡会で会報を出していたら送付をお願いします。会員の皆様は、総会などで閲覧することができます。

自然観察指導員講習会、生物分類・生態研修会などのお知らせ

●自然観察指導員講習会のお知らせ

日 時：8月19日（土）～8月20日（日） 場 所：「美浜少年自然の家」

住 所：愛知県知多郡美浜町大字小野浦字宮後 1-1 電話 0569-88-5577

講習会：60 名募集 NACS-J 会員 15,000 円 会員外 20,000 円 詳細 P 3 & チラシ参照

交通機関：名鉄知多新線内海駅下車 3.4km、内海駅からタクシーで 10 分、徒歩で約 40 分

●生物分類・生態研修会のお知らせ

日 時：10 月 09 日（月・祝） 13：30～16：30

20 場 所：名古屋市中心企業会館（吹上ホール）

講 師：林 将之氏（樹木図鑑作家） 演 題：葉っぱはなぜこんな形なのか？

ー植物の生きる戦略と森の生態系を考えるー 詳細 P 4 & チラシ参照

●あいちの自然観察会

日 時：西三河支部 9 月 30 日（土） 9：00～ 六所山（豊田市）六所山の秋を楽しもう

豊田市総合野外センター西 P

<編集後記>

今年は自然観察指導員講習会の年です。仲間を増やすチャンスです。ご協力いただける方は一報ください。チラシをお届けします。チラシは各支部長・事務局にあります。

新人研修会は東三河支部のご協力で 10 月 1 日（日）茶臼山で行います。詳しくはチラシ参照。名古屋自然観察会の 40 周年記念事業のチラシ、協議会ニュース 178 号に同封しています。

編集スタッフ	石原則義 内海勇夫 岡田雅子 馬場隆之 平山希能
協議会ニュース編集部	石原則義 事務局に同じ

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市千種区下方町 7-3 TEL/FAX : 052-711-3087

E-mail : norinameobata@yahoo.co.jp Web Page : <http://anoicm.sakura.ne.jp>

郵便振替口座：00820-9-6546（名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会）